

埼玉大学
インフラ長寿命化計画(個別施設計画)



2020 年度

国立大学法人 埼玉大学

目次

1. 施設長寿命化計画の背景・目的・・・・・・・・・・・・・・・・	2
①背景	
②目的	
③計画期間	
④対象施設	
2. 大学施設の実態・・・・・・・・・・・・・・・・	3
①施設の配置状況	
②施設の老朽化状況の実態	
3. 施設整備の基本的方針・・・・・・・・・・・・・・・・	5
①施設長寿命化計画等の方針	
4. 長寿命化の実施計画・・・・・・・・・・・・・・・・	7
①改修等の整備水準	
②維持管理上の点検項目・手法等について	
③改修の優先度	
④長寿命化に向けたコスト	
⑤長寿命化改修計画案（15 年間）	
5. 長寿命化計画の継続的運用・・・・・・・・・・・・・・・・	14

1. 施設長寿命化計画の背景・目的

①背景

平成24年12月の中央自動車道笹子トンネル天井板落下事故を受け、政府全体の取組とし、国民生活や社会経済活動を支えるインフラに関する維持管理等の方向性を示す基本的な計画である「インフラ長寿命化基本計画（以下「基本計画」という。）」が、平成25年11月に策定された（インフラ老朽化対策の推進に関する関係府省庁連絡会議決定）。

埼玉大学ではこの基本計画に基づき、「埼玉大学インフラ長寿命化計画（行動計画）」を策定した。

同計画を踏まえインフラ維持管理・更新等を着実に推進するため取組の方向性を明らかにすると共に個別施設毎の具体的な対応方針を定める「個別施設毎の長寿命化計画（個別施設計画）」を2020年度までに策定することが求められた。

埼玉大学は昭和39年度に現在地に移転が始まり整備されたキャンパスであり、建築後25年を経過し改修を要する施設が約4割を占めるなど、老朽化が進行している。これまで、文部科学省から示された「国立大学法人等施設整備5か年計画」に基づいた計画的な施設整備に取り組んできたところである。

現下の厳しい財政状況の中、これらの施設の現状を把握して、同計画に基づき効果的・効率的に長寿命化を図ることにより、良好な状態の維持や安全性の確保に努めていく必要がある。

②目的

「埼玉大学インフラ長寿命化計画（行動計画）」を踏まえ、大学の普遍的な知の府としての「基盤強化」と、地域活性拠点として首都圏埼玉に根ざした埼玉大学の「個性化」を軸とした、文理融合教育によるイノベティブでグローバルな人材育成による地域活性拠点としての安全安心な施設や、持続可能で良好なキャンパス環境を目的とし、施設の長寿命化に向けた効率的な施設整備を立案して、ライフサイクルコスト縮減を考慮した計画を策定する。

③計画期間

計画期間は長期的視点での施設の更新周期や維持保全などを考慮する必要があることから、2021年度から2050年度までの30年間として設定する。教育環境の変化や施設整備予算の状況を考慮し、5年程度にて見直しを行う。

④対象施設

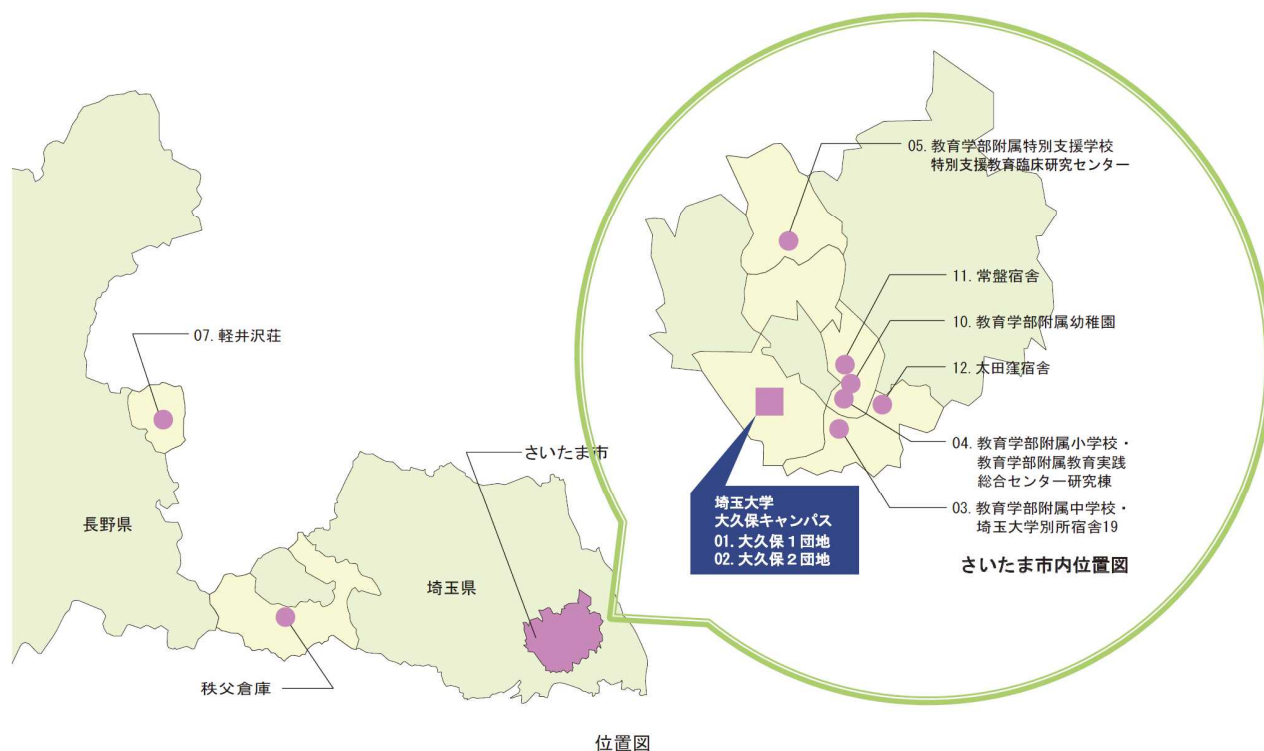
【建築物】

計画対象施設は本学が所有している10団地（キャンパス等）にある106棟を対象とする。

2. 大学施設の実態

①施設の配置状況

本学はさいたま市内をメインに県内外に 10 の団地がある。



対象施設団地（対象建物）

団地番号	団地名	敷地面積（㎡）	延床面積（㎡）	棟数	備考
01	大久保 1	263,040	137,139	75	メインキャンパス
02	大久保 2	42,862	15,507	7	学生宿舎、国際交流会館等
03	別所 4	34,910	8,032	12	附属中学校、職員宿舎
04	常盤 6－9	19,533	7,544	3	附属小学校
05	大宮	14,438	3,759	5	附属特別支援学校
07	軽井沢	933	218	1	軽井沢荘
10	常盤 8－1 3	4,198	666	1	附属幼稚園
11	常盤 1 0－1 9	3,967	2,525	1	職員宿舎
12	太田窪 2－1 8	2,219	2,240	1	職員宿舎
合計		386,100	177,630	106	



大久保キャンパス 1・2



03 附属中学校



04 附属小学校



05 附属特別支援学校



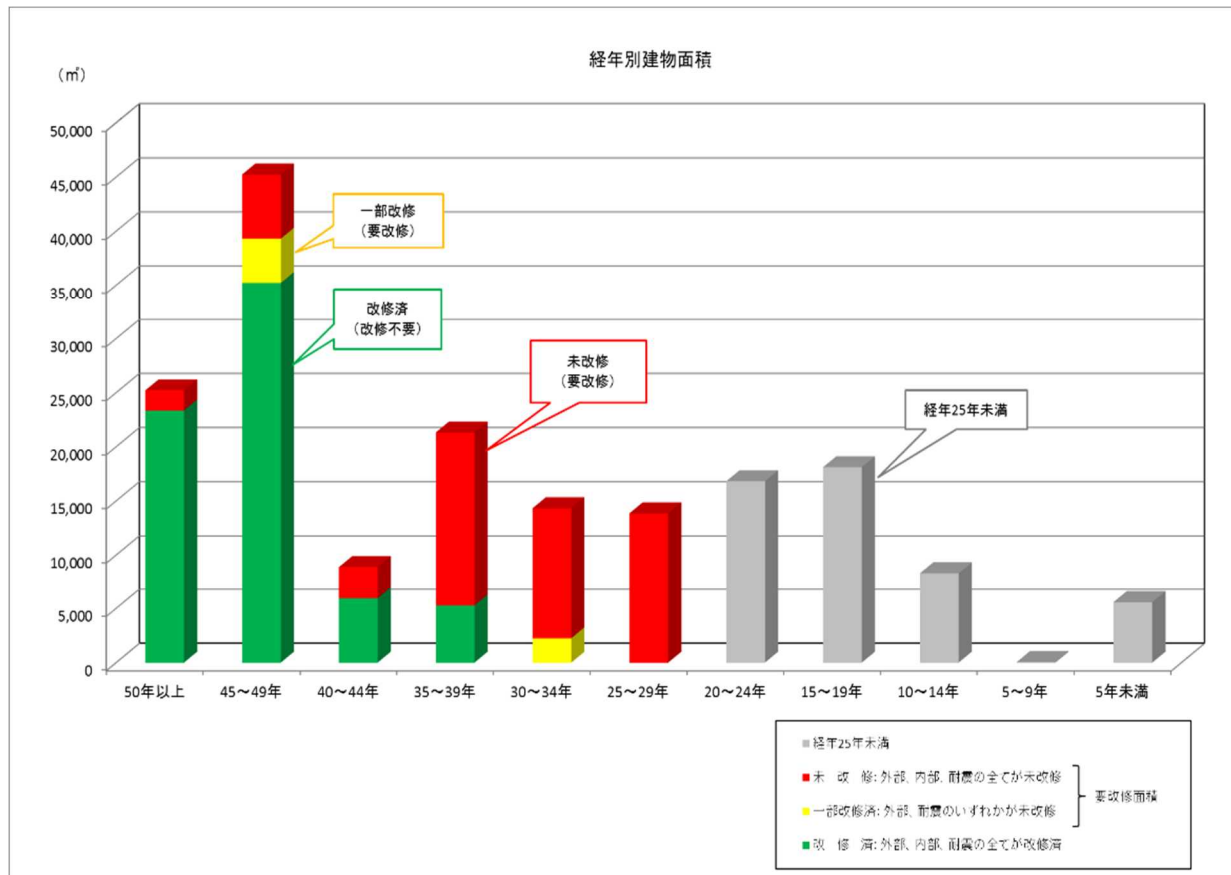
10 附属幼稚園

②学校施設の老朽化状況

本計画の対象建物総面積は、約 178,000㎡であるが、建設後25年以上経過している建物は約143,000㎡と、全体の80%を占めており、老朽化が進行している状況である。

これは、昭和40年代に大久保キャンパスに移転したことにより、集中的に校舎等の整備が進んだことによるものである。

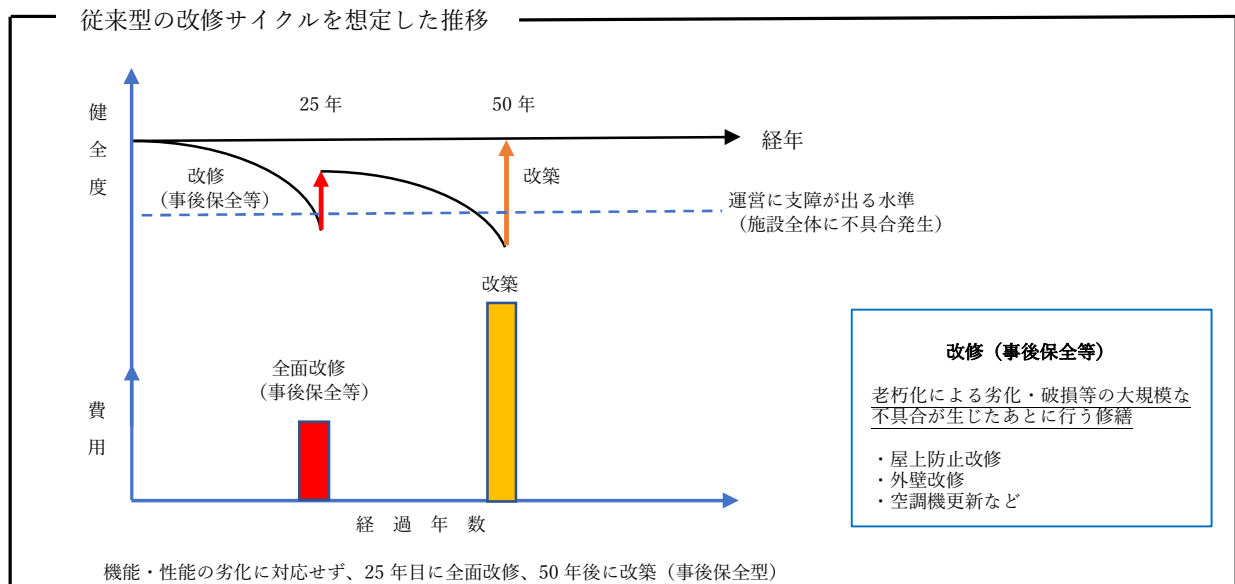
また、このうち全面改修済みの建物は約76,000㎡（53%）、今後改修を要する建物は、67,000㎡（47%）で計画対象施設面積の約38%となっており、老朽化に対して改修整備が追いついていない状況である。（図表1参照）



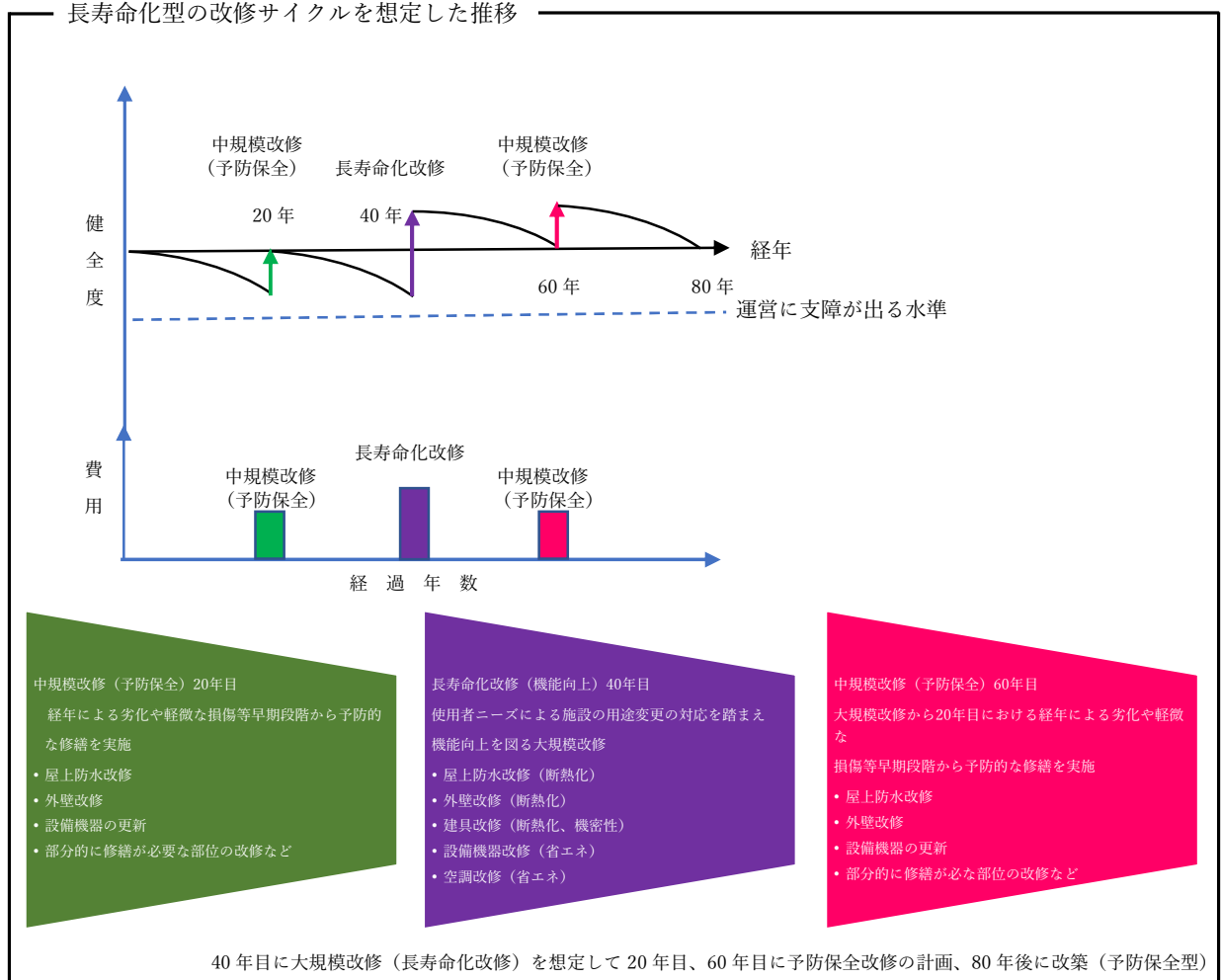
3. 施設整備の基本的方針

①施設長寿命化計画等の方針

法定耐用年数約 50 年（コンクリート造）に対して躯体性能が維持されることを前提とした建物については改築 80 年を基準として各部の物理的耐用年数を考慮し、安全性、省エネルギー対策、用途変更を含め、トータルコストが改築より工事費が安価となることを前提に、適切な周期での更新計画を図る。



長寿命化型の改修サイクルを想定した推移



主な工種別の計画更新年数

名称	種別	法定耐用年数	計画更新年数	備考
屋上防水	改質アスファルト	15年	20年	
	シート系防水	15年	20年	
	塗膜防水	15年	20年	
外壁	タイル	15年	40年	
	塗装	15年	20年	
	シーリング	15年	20年	
受電設備	屋外形	15年	20年	
	屋内形	15年	20年	自家発電装置
太陽光発電	モジュール	15年	20年	
	パワーコンディショナー	15年	20年	
照明器具	蛍光灯	15年	20年	
電線類		15年	40年	
電線管		15年	40年	
空調設備	パッケージ形	15年	20年	
	マルチパッケージ形	15年	20年	
	ガスヒートポンプ形	15年	20年	
給水管	ライニング鋼管	15年	40年	
	ステンレス管	15年	40年	
	ビニル管	15年	40年	
排水管	白鋼管	15年	40年	
	ビニル管	15年	40年	
	鋳鉄管	15年	40年	
	ヒューム管	15年	40年	
エレベーター		17年	20年	

※計画更新年数は、国土交通省監修のライフサイクルコスト及び改修履歴を参考

4. 長寿命化の実施計画

①改修等の整備水準

長寿命化に配慮した改修等の整備水準は以下を基本とする。

1. 躯体 — コンクリートクラック補修、鉄筋爆裂補修、中性化対策
2. 屋上 — 防水の性能向上（断熱仕様、耐久性塗料等の使用）
3. 外装 — 既存仕様及び改修内容を踏まえた対応
外壁：外断熱または内断熱、タイル面において張替え、樹脂注入、吹付け面は高耐久性塗料の採用
建具：複層ガラスや真空ガラス等による高断熱化
4. 内装 — 汎用性があり維持管理が容易な材料の選定
5. 設備器具等 — LED 照明、高効率空調など省エネルギー対応製品の採用
6. 情報通信 — 最新情報ネットワークに更新
7. バリアフリー対応 — 出入り口スロープ、多機能トイレの設置など
8. その他 — 防災・防犯機能のセキュリティーの採用

②維持管理上の点検項目・手法等について

建物の劣化度調査を埼玉大学施設パトロール点検表（劣化状況調査票）に基づき現地調査を行い、点検結果を基に事後保全、予防保全の判定を行い計画的に策定する。

点検調査については概ね3年毎に実施して劣化状況評価の見直しを図る。

現況建物劣化度総合判定の基準は外部（屋上防水、外壁等）、内部（仕上げ及び電気及び機械設備の劣化、破損及び故障など）、築年数と躯体の健全度を軸に評価を行う。

1) 劣化状況の把握

「国立大学法人等施設の長寿命化に向けた基本的な考え方の整理（H30.3月）を踏まえ「施設パトロール点検表」結果に基づき、改修履歴及び定期報告点検・診断のデータ等確認の上、各部位の劣化状況により、A，B，C，Dの4段階評価を行う。

施設点検項目の例

施設パトロール点検表

点検日

年

月

日

棟番号	主要仕上げ		改修歴
	外部建具(扉)		
棟名称	外部建具(窓)		
	外壁		
構造・階数・面積	屋上防水		
	竖樋		
整備年	年	経年	年
点検者:			

A:概ね良好 B:部分的に経年劣化有り C:全体的に経年劣化有り D:早急に対応が必要な劣化・不具合有り

点検部位		点検内容		劣化状況	備考
基礎		基礎	劣化、損傷、沈下	A・B・C・D	
外壁全般	東面	壁コンクリート	ひび割、欠損、鉄筋露出	A・B・C・D	
		壁仕上げ	ひび割、欠損、剥離、浮き、汚れ	A・B・C・D	
	南面	壁コンクリート	ひび割、欠損、鉄筋露出	A・B・C・D	
		壁仕上げ	ひび割、欠損、剥離、浮き、汚れ	A・B・C・D	
	西面	壁コンクリート	ひび割、欠損、鉄筋露出	A・B・C・D	
		壁仕上げ	ひび割、欠損、剥離、浮き、汚れ	A・B・C・D	
	北面	壁コンクリート	ひび割、欠損、鉄筋露出	A・B・C・D	
		壁仕上げ	ひび割、欠損、剥離、浮き、汚れ	A・B・C・D	
EXP・J		EXP・J	漏水、変形、腐食	A・B・C・D	
バルコニー	手すり壁コンクリート	ひび割、欠損、鉄筋露出	A・B・C・D		
	手すり壁仕上げ	ひび割、欠損、剥離、浮き、汚れ	A・B・C・D		
	上げ裏(天井)	ひび割、欠損、鉄筋露出、剥離、漏水(跡)	A・B・C・D		
	金属手すり	破損、発錆	A・B・C・D		
	金属手すり付け根	ひび割、欠損、鉄筋露出、剥離	A・B・C・D		
外階段	コンクリート階段	ひび割、欠損、鉄筋露出、剥離、漏水(跡)	A・B・C・D		
	鉄骨階段	破損、発錆、穴あき、漏水(跡)	A・B・C・D		
庇・軒	コンクリート製	ひび割、欠損、鉄筋露出、剥離、漏水(跡)	A・B・C・D		
	金属製	破損、発錆、穴あき、漏水(跡)	A・B・C・D		
屋上・屋根	防水面(床面)	ひび割、剥離、ふくれ、剥れ、劣化、水溜(跡)、雑草	A・B・C・D		
	パラペット(立上り部)	ひび割、欠損、鉄筋露出、剥離	A・B・C・D		
	ドレイン(排水口)	目詰、水溜(跡)、発錆、雑草	A・B・C・D		
	屋上鉄部	破損、発錆、固定不良	A・B・C・D		
	金属手すり	破損、発錆	A・B・C・D		
	金属手すり付け根	ひび割、欠損、鉄筋露出、剥離	A・B・C・D		
塔屋	外壁	ひび割、欠損、鉄筋露出、剥離	A・B・C・D		
	屋根	ひび割、破損、ふくれ、剥れ、劣化、水溜(跡)	A・B・C・D		
	出入口扉(窓)	破損、発錆、変形、開閉不良	A・B・C・D		
附属物	EXP・J	破損、発錆、外れ、漏水(跡)	A・B・C・D		
	竖樋	破損、発錆、外れ、漏水(跡)	A・B・C・D		
	換気口、フード	破損、発錆	A・B・C・D		
	床下点検口	破損、発錆、変形、開閉不良	A・B・C・D		
	建物表示等	破損、発錆、変形、外れ	A・B・C・D		
	スロープ床仕上げ	ひび割、破損、剥れ、水溜(跡)、汚れ、障害物	A・B・C・D		
	金属手すり	破損、発錆	A・B・C・D		
	金属手すり付け根	ひび割、欠損、鉄筋露出、剥離	A・B・C・D		
	玄関ポーチタイル	ひび割、破損、剥れ、水溜(跡)、汚れ、障害物	A・B・C・D		
	外部建具	窓	破損、発錆、変形、開閉不良、ガラス破損(ヒビ)	A・B・C・D	
扉(出入口)		破損、発錆、変形、開閉不良、ガラス破損(ヒビ)	A・B・C・D		

補足事項等

③改修の優先度

施設改修の優先順位の考え方は、築 25 年以上経過の未改修建物を優先対象とし、更に施設パトロール点検表に基づき調査した劣化度を点数評価した総合劣化度判定表を基に以下の項目を考慮し改修の優先度を決定する。

- 1) 施設の築年数に加えて、各建物利用者数、劣化・損傷状況、当該施設が果たす役割、及び重要性等を考慮し、総合的に優先度の判断を行う。
- 2) 施設の重要度は、大学運営に係る主たる教育・研究に係わる施設及び講義棟、防災計画における災害時の指定避難所施設等により公共性の設定を行う。
- 3) 総合劣化度と施設公共性による改修優先度の判定について
同判定による優先度は確定されたものではなく、個々の状況や緊急性などに応じて対応する。

施設公共性分類表

施設公共性（災害拠点等）	分類	建物数	建物名
	①（高） 事務局等 災害時拠点 指定避難所等	14	正門守衛所 保健センター
			第1体育館 総合体育館
			（附中）特別教室棟2 本部2号館
			第1食堂 大学会館
			本部管理棟 （附小）体育館
	②（中） 教育研究基盤	59	第2食堂 （附小）校舎
			（附中）体育館 （附中）武道場
			建設第1実験棟 振動実験室
			R I 実験施設 研究機構棟3号館
			教育学部C棟 電気電子システム工学科棟1号館
			教育学部A棟 （附特）小学部棟
			理学部講義実験棟 （附特）中・高等部・管理棟
			教育学部B棟 総合研究棟2号館
			（附中）技術棟 工学部講義棟
			応用化学科棟1号館 研究機構棟1号館
			理学部1号館 環境社会デザイン学科2号館
			（附中）特別教室棟1 教育学部H棟
			教育機構棟 工学部第2実験棟
			教養学部棟 総合研究棟3号館
			経済学部棟 図書館2号館
			環境社会デザイン学科1号館 全学講義棟2号館
			教科教室棟 電気電子システム工学科棟2号館
			全学講義棟1号館 幼稚園園舎 他
	③（低） その他	16	弓道場 多目的棟
			学内合宿研修施設 学生宿舎（3号館）
			プール附属室 国際交流会館2号館
			運動附属施設 国際交流会館4号館(旧職員宿舎)
			第1武道館 託児施設
			納品検収センター 国際交流会館1号館
			学生宿舎（1・2号館） 国際交流会館3号館
			軽井沢荘 課外活動共用施設

※建物数は調査対象建物のみを記載しており全保有建物ではありません



『施設公共性と総合劣化度からの優先度判定及び各分類』

建物の総合劣化度と施設公共性による保全優先度を下記の表より評価して優先順位付けをします。

劣化状況は以下のポイントでグループ化し、優先度はそのグループの中でも劣化状況ポイントの高い順としています。

総合劣化度 施設公共性	I (70点以上)	II (60点以上70点未満)	III (50点以上60点未満)	IV (50点未満)
①	優先度 1	優先度 2	優先度 3	優先度 4
②	優先度 2	優先度 3	優先度 4	優先度 5
③	優先度 3	優先度 4	優先度 5	優先度 6

総合劣化度判定表 (改修済建物を含む)

『総合劣化度と施設公共性による保全優先度判定』

優先順位は、総合劣化度と施設公共性により下表の優先度①～⑥の順とし、またそれぞれのグループ内でのポイントの高い順として評価をしています。

総合劣化度							
Ⅰ (70点以上)		Ⅱ (60点以上70点未満)		Ⅲ (50点以上60点未満)		Ⅳ (50点未満)	
① (高)		大久保1 正門守衛所 (60.5)	別所4 特別教室棟2 (58.1)	大久保1 第1体育館 (48.1)	大久保1 保健センター (45.3)	別所4 体育館 (39.6)	大久保1 第1学生食堂 (35.9)
					大久保1 第2学生食堂 (35.9)	大久保1 本部管理棟 (34.3)	大久保1 大学会館 (27.1)
					大久保1 本部2号館 (25.4)	常盤6－9 校舎 (24.7)	常盤6－9 附属小学校体育館 (21.5)
					別所4 武道場 (20.9)	大久保1 総合体育館 (17.3)	
	大久保1 建設第1実験棟 (73.1)	大久保1 機械工学科棟 (60.3)	別所4 教科教室棟 (51.8)	大久保1 教育学部C棟 (48.9)	別所4 特別教室棟1 (46.0)	別所4 技術棟 (43.7)	大久保1 研究機構棟1号館 (42.6)
	大久保1 R I 実験施設 (72.5)			大久保1 教育学部H棟 (41.9)	大久保1 理学部2号館 (40.7)	大久保1 教育学部A棟 (40.3)	大久保1 理学部講義実験棟 (38.9)
				大久保1 経済学部棟 (38.7)	大久保1 振動実験室 (38.4)	大久保1 教育学部B棟 (36.9)	大久保1 教育機構棟 (36.5)
				大久保1 応用化学科棟1号館 (36.4)	大宮 日常生活訓練施設 (36.3)	大久保1 図書館1号館 (36.2)	大久保1 電気電子システム工学科棟2号館 (35.9)
				大久保1 環境社会デザイン工学科1号館 (35.2)	大久保1 教養学部棟 (35.2)	大久保1 全学講義棟3号館 (35.2)	大久保1 体育管理室3 (34.8)
				大宮 体育・技術棟 (34.5)	大久保1 理学部1号館 (34.1)	別所4 特別教室棟3 (33.9)	大久保1 研究機構棟2号館 (33.6)
				常盤8-13 幼稚園園舎 (33.6)	大久保1 電気電子システム工学科棟1号館 (33.5)	大久保1 情報・分析センター棟 (32.9)	大久保1 オープンイノベーションセンター研究棟 (32.7)
				大久保1 総合研究棟3号館 (32.6)	大宮 附属特別支援中・高等部・管理棟 (32.5)	大宮 附属特別支援小学部棟 (32.4)	大久保1 先端加工実験室 (32.0)
				大久保1 環境社会デザイン工学科3号館 (31.8)	大久保1 体育管理室1 (31.5)	大久保1 工学部講義棟・情報メディア基盤センター (31.0)	大久保1 全学講義棟1号館 (30.1)
				大久保1 情報システム工学科棟 (28.4)	大久保1 体育管理室2 (28.3)	大久保1 理工学研究科棟 (28.2)	大久保1 応用化学科棟2号館 (28.0)
			大久保1 建設第2実験棟 (28.0)	大久保1 総合研究棟2号館 (27.5)	大久保1 図書館2号館 (26.9)	大久保1 機能材料工学科棟 (26.8)	
			大久保1 環境社会デザイン工学科2号館 (26.5)	大久保1 全学講義棟2号館 (26.5)	常盤6－9 教育実践総合センター (25.3)	大久保1 教育学部コモ1号館 (22.6)	
			大久保1 経済学部講義棟A (22.3)	大久保1 総合研究棟1号館 (22.0)	大久保1 工学部実習工場・研究実験棟 (21.3)	大久保1 理学部3号館 (20.7)	
			大久保1 教育学部D棟 (12.7)	大久保1 図書館ラーニングコモンズ (11.7)	大宮 特別支援教育臨床研究センター (10.8)		
③ (低)	大久保1 弓道場 (72.8)		大久保1 第1武道館 (59.7)	大久保1 学内合宿研修施設 (35.0)	大久保2 学生寄宿舎 (1号館・2号館) (32.2)	大久保2 託児施設 (32.0)	大久保1 課外活動共用施設棟 (30.4)
			大久保2 国際交流会館2号館 (59.4)		大久保2 学生寄宿舎 (3号館) (30.4)	大久保2 国際交流会館4号館 (旧職員宿舎) (29.8)	大久保1 プール附属室 (28.4)
					大久保2 国際交流会館3号館 (27.4)	大久保1 多目的棟 (26.5)	大久保2 国際交流会館1号館 (24.4)
					軽井沢 軽井沢荘 (22.3)	大久保1 運動場附属施設 (18.9)	大久保1 納品検取センター (13.7)
	建物数 3棟		2棟	4棟	80棟		
					89棟		

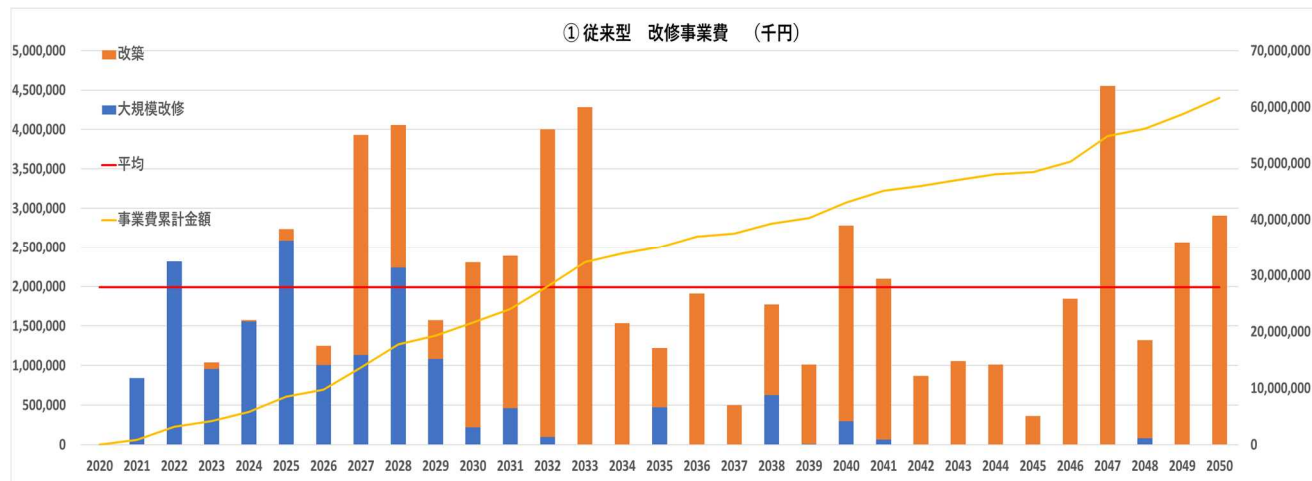
④施設維持に係るコスト

長寿命化計画における費用試算（コスト比較）

参考：補助金等平均支出額 約 2.89 億円、大学自己財源等平均支出額 約 2 億円

上記合計 施設整備関連経費の支出平均額 4.89 億円／年

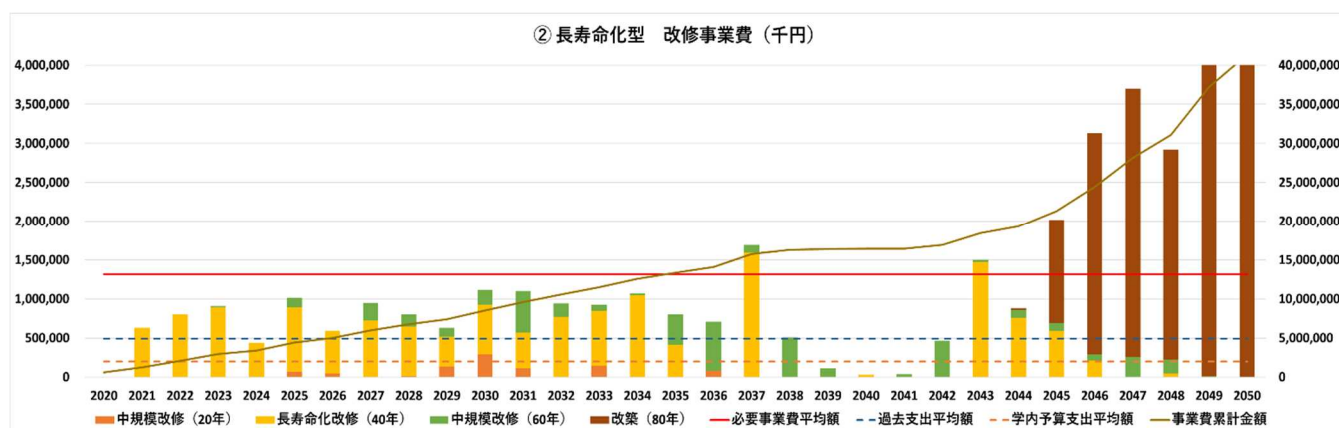
(1) 従来型改修（大規模改修 25 年、改築 50 年のサイクル）



(1) 従来型改修における施設整備コストの見通し

建築後 50 年後での改築とした場合、今後 30 年間に必要となるコストは約 616 億円（20.5 億円／年）必要となり、施設整備関連経費の支出平均額 4.89 億円／年の約 4.2 倍となり 15.6 億円／年不足している。本学建物等は、既に築後 50 年を超え、改築対象の建物が数棟訪れている状況となっている。このことから従来型改修による整備は予算上からも困難であるため、長寿命化型改修における検討を行う。

(2) 長寿命化型改修（20 年目中規模改修、40 年目で大規模改修、60 年目中規模改修、80 年目で改築を想定した改修サイクル）



(2) 長寿命化型改修における施設整備コストの見通し

長寿命化として築後 80 年で改築とした場合、今後 30 年間に必要となるコストは約 407 億円（13.6 億円／年）となり、従来型改修・改築のコストに比べ約 209 億（約 34%）の縮減となる。

建物等改修に係る支出平均額 4.89 億円／年に対して、8.71 億円／年不足している。

長寿命化改修サイクルとした場合においても、2045 年頃より改築費用が増大していくことが予測される。

⑤ 長寿命化改修計画案（15 年間）

番号	団地名	棟番号	棟名称	建設年	改修計画時 築年数	整備区分	年度別 事業費概算 (百万円)	改修計画年度														
								2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
1	大久保 1	27	理学部 2 号館（前期）	1979	42	長寿命化改修	630	○														
2	大宮	3	体育・技術棟	1974	47	長寿命化改修		○														
3	大久保 1	27	理学部 2 号館（後期）	1979	43	長寿命化改修	807		○													
4	大久保 1	440	保健センター	1969	53	長寿命化改修			○													
5	大宮	2	中・高等部・管理棟	1974	48	長寿命化改修			○													
6	大宮	1	小学部棟	1974	49	長寿命化改修				○												
7	大久保 1	351	図書館 1 号館	1969	54	長寿命化改修	910			○												
8	大久保 1	420	第一食堂	1965	58	中規模改修				○												
9	大久保 1	603	電気電子システム工学科 2 号館	1986	38	長寿命化改修	440				○											
10	大久保 2	13	国際交流会館 2 号館	1988	36	中規模改修					○											
11	大久保 1	194	教育学部 H 棟	1982	43	長寿命化改修	1,009					○										
12	大久保 1	154	情報メディア基盤センター・科学分析支援センター棟	1985	40	長寿命化改修						○										
13	大久保 1	623	総合体育館	2000	25	中規模改修						○										
14	大久保 1	63	応用化学科棟 1 号館	1965	60	中規模改修						○										
15	大久保 1	152	研究機構棟 1 号館	1980	46	長寿命化改修	589						○									
16	大久保 1	614	オープンイノベーションセンター研究棟	1996	30	中規模改修							○									
17	大久保 1	605	機械工学科棟	1987	40	長寿命化改修	949							○								
18	大久保 1	302	正門門衛所	1967	60	長寿命化改修									○							
19	大久保 1	253	教育機構棟	1969	58	中規模改修								○								
20	大久保 1	602	研究機構棟 2 号館	1985	43	長寿命化改修										○						
21	大久保 1	68,600	RI 実験室	1968	60	長寿命化改修	806									○						
22	大久保 1	69	建設工学科棟 1 号館	1969	59	中規模改修											○					
23	大久保 1	187	第一武道場	1968	60	中規模改修											○					
24	大久保 1	371	第一体育館	1966	62	中規模改修											○					
25	大久保 1	460	弓道場	1968	60	中規模改修											○					
26	大久保 1	704	特高配電所	1999	29	中規模改修											○					
27	大久保 1	620	体育管理室 1	1998	30	中規模改修											○					
28	大久保 2	8	託児施設	1975	53	中規模改修												○				
29	大久保 2	12	国際交流会館 1 号館	1984	44	中規模改修											○					
30	大久保 1	71	建設第 1 実験棟	1969	60	長寿命化改修	632										○					
31	大久保 1	606	建設工学科棟 3 号館	1988	41	長寿命化改修												○				
32	大久保 1	74	電気電子システム工学科棟 1 号館	1973	56	中規模改修												○				
33	大久保 1	625	総合研究棟（1/3）	2003	26	中規模改修													○			
34	大久保 1	621	体育管理室 2	1998	31	中規模改修													○			
35	大久保 1	703	運動場附属施設	1999	30	中規模改修													○			
36	大久保 1	704	特高配電所	1999	30	中規模改修													○			
37	別所 4	4	特別教室棟 2	1970	59	中規模改修													○			
38	大久保 1	624	理学部 3 号館	2000	30	中規模改修	1,113											○				
39	大久保 1	604	大学会館	1987	43	長寿命化改修													○			
40	常盤 6－9	21	体育館	1990	40	長寿命化改修													○			
41	大久保 1	625	総合研究棟（2/3）	2003	27	中規模改修													○			
42	大久保 1	622	体育管理室 3	1998	32	中規模改修													○			
43	大久保 2	1	学生寄宿舎（1 号館・2 号館）（1/2）	1969	61	中規模改修													○			
44	別所 4	4	特別教室棟 1	1970	60	中規模改修													○			
45	大久保 1	609	情報システム工学科棟	1991	40	長寿命化改修	1,101												○			
46	大久保 1	22	理学部 1 号館	1966	65	中規模改修													○			
47	大久保 1	76	工学部講義棟・情報メディア基盤センター	1976	55	中規模改修													○			
48	大久保 1	625	総合研究棟（3/3）	2003	28	中規模改修														○		
49	大久保 1	467	学内合宿研修施設	1978	53	中規模改修														○		
50	大久保 2	1	学生寄宿舎（1 号館・2 号館）（1/2）	1969	62	中規模改修														○		
51	別所 4	1	技術棟	1970	61	中規模改修														○		
52	常盤 6－9	22	校舎（1/2）	1992	40	長寿命化改修	943													○		
53	常盤 6－9	23	教育実践総合センター	1992	40	長寿命化改修														○		
54	常盤 8－1 3	1	幼稚園園舎	1982	50	長寿命化改修														○		
55		254	全学講義棟 3 号館	1971	61	中規模改修															○	
56	別所 4	2	教科教室棟	1970	62	中規模改修															○	
57	大久保 2	2	学生寄宿舎（3 号館）	1972	60	中規模改修	928													○		
58	常盤 6－9	22	校舎（2/2）	1992	41	長寿命化改修															○	
59	別所 4	12	特別教室棟 3	1993	40	長寿命化改修															○	
60	別所 4	13	武道場	1993	40	長寿命化改修															○	
61	大久保 1	714	工学部実習工場・研究実験棟	2013	20	中規模改修	1,070														○	
62	大久保 1	715	教育学部 D 棟	2013	20	中規模改修															○	
63	大久保 1	256	全学講義棟 2 号館	1978	55	中規模改修															○	
64	大久保 1	292	本部 2 号館	1981	53	長寿命化改修																○
65	大久保 1	611	理工学研究科棟	1994	40	長寿命化改修																○
66	大久保 1	501	多目的棟	1969	65	中規模改修																○
67	大久保 1	613	プール付属室	1994	40	中規模改修																○
68	大久保 1	717	納品検収センター	2014	20	中規模改修																○
69	大久保 1	612	課外活動共用施設棟	1995	40	長寿命化改修																○
70	大久保 1	701	工学部建設第 3 実験棟	1975	60	長寿命化改修																○
71	大久保 1	1	経済学部棟	1969	66	中規模改修	804															○
72	大久保 1	352	図書館 2 号館	1980	55	中規模改修																○
73	大久保 2	16	国際交流会館 3 号館	1995	40	中規模改修																○

長寿命化改修計画案（15 年間）は、③改修の優先度及び年間事業費用平準化を踏まえて、築 25 年以上経過の未改修建物で大学運営の主となる教育研究活動を行う建物を優先とし、その他の施設については改修履歴(部分改修も含む)等を考慮した。

5. 長寿命化計画の継続的運用

本計画は施設の長寿命化を図る為の施設の改修手法の見直し、改修・改築の優先順位設定及び予算確保に向けた事業費概算額を算出するものとする。

必要となる施設整備関連予算については、今後も厳しいことが予想されるため、増加する長寿命化改修（40 年目）、中規模改修（60 年目）を迎える建物について、定期的な施設点検による建物等の劣化状況や教育研究方針及び財政的事情等を反映して、優先順位及び改修範囲、改修内容の精査を行い、本計画の見直しを図るものとする。

また、改築時期を迎える各建物について、改築の必要性及び更なる長寿命化改修の判断を行い、スペースの有効活用による減築を含めた整備方針を改めて検討する。